

How to Build

リバースウッド

■リバースウッドデッキシステムのデッキの突合せ目地管理

リバースウッドは、廃木材と廃プラスチックを原料としているため、表面温度が上昇するとプラスチック成分の熱膨張が発生します。

$$\text{熱膨張 (mm)} = 5 \times 10^{-5} \times \text{材温差 (}^\circ\text{C)} \times \text{材長 (mm)}$$

この熱膨張を計算し、安全上の観点から目地幅が 5mm 以下とするために、RWDSでは、根太スパン@500mm の場合、デッキ材の基準材長を1,995mm と設定しています。

よって、現場での温度管理を徹底し、測定材長による突合せ目地幅を表-1 のように決定し、現場全スタッフへ指示します。

縁石コンクリートや躯体と取り合う場合も、下表の突合せ目地幅に躯体の仕上がり精度を加味した目地を確保します。



表-1

材長実測値	突合せ目地
1995mm	5mm
1996mm	4mm
1997mm	3mm
1998mm	2mm
1999mm	1mm
2000mm	0mm

突合せ目地幅

- ※ 材長の測定時間は、8時、11時、13時、15時とし、上表に合致する突合せ目地幅を全スタッフに周知徹底します。
- ※ 端部の切り欠き加工を行い、材長を合わせる場合も、上記計算式に基づき突合目地を算出します。
- ※ 気温や天気変化の大きい作業日は、より頻繁に材温を測定し、的確な指示を出します。
- ※ 材温(気温)が上昇する5月～10月の施工では特に注意を促します。